

(旧) 県民交流広場 全県オフィシャルホームページ 掲載記事

掲載コンテンツ：リレーコラム

掲載時期 平成 23 年 3 月

テーマ よってこ村・荒井……とは

寄稿者 よってこ村・荒井 総務大臣 宮本 幸弘

「よって来い…よ」、「ほな ちょつと、寄っていこか」何となくほのかな播州言葉。播磨地方で古くから使われている言葉で、何となく温かみや親近感のある播州弁です。

今、地域では、高齢者が家庭内でもったり、子ども達の屋外遊びが激減したり、地域生活ではお隣りの居住者と会話をする余裕もなく、ひたすら汗を流して自分の生活を確保するのが精一杯の今こそ、地域の仲間とのコミュニティを通して「元気な地域と仲間づくり」を構築し、その「仲間との輪の力」で社会のシステムや新しいルールをより人間社会に合致したものに作り替えなければならないと痛切に感じる時代となっています。

高砂市荒井地域（荒井小学校区、4,750世帯、12,000人の居住地域）ではこの播州弁の「よってこ」の言葉にちなんでコミュニティの住民組織「よってこ村・荒井」を立ち上げ遊びを通じて仲間づくりやその時々々の生活課題や地域問題、行政課題や諸手続きへの対応、そして地域に伝わる習慣行事等をボランティア仲間達で「遊び心を持って即座に対応」を合言葉に取り組んでいます。

今までの地域活動は、中心的リーダーが自身の意見や思いを相手に伝え、支援や応援を取り付けながら行動展開していたものを、その時々々の問題や出来事を、「今では何でも聞いてやろうとする、よろず相談型地域活動」とでも言うべきか、受け側にまわって地域行動を取り組むことを基本方針として位置付けて新たな地域活動として展開しています。

「よってこ村・荒井」は校区の真ん中にある企業の福利厚生施設の無償借用の協力を求め、1999年新築の約90坪の建物と約760坪の広場を村役場と名称付け県民交流広場を開設、「いつでも、だれでも」の合言葉で運営、建物内は囲碁将棋部屋、図書室、テレビの部屋、娯楽の部屋等は自由に誰でも使用でき、会議等は100人規模のホール、20人の和室では子育てグループ等の集会、婦人層の茶話会、広場にはグラウンドゴルフ常設コース、バーベキューコーナー等も備えた施設です。

この施設の運営スタッフを地域の中から集めるとそれぞれの専門家が気持ち良く協力を申し出てくれ、日常的に「よろず相談」が出来、とても喜ばれています。

協力のスタッフも現役を引退しているだけに、「時間はタツプリ、知恵も充分、お金もち

ヨッピーリ余裕」の3拍子そろっている人材が集まってくれるだけに地域からは信頼される「村のお代官所」と言われ大変反響が大きくなっています。

地域における人間交流は、難しい言葉で、わかりにくい理論で、無理難題の押し付けで、規制した中からの人づくりで無く、「遊び心の日常行動の実践から、自然に取り組める住民活動がコミュニティ活動につながるもの」と確信を持ったところです。

地域の住民も気さくな行動に親近感を覚え、何でも相談する代わりに何でも協力をしようとする認識となるだけによってこ村・荒井の活動は地域コミュニティ活動の高揚に向かった階段途中にあるとっても大切な関所のようなものであり、自己中心の「悪徳代官」でなく、そこには住民から呼び止められ、親しまれる「お代官」が求められています。

このお代官を目指し、よってこ村・荒井のスタッフは大きく、強く、そして大衆的底辺の拡大にむけ活動展開をしたいと考えています。